月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
1
〈EKUTEBIAN-VOL.3,
JANUARY 1986-EKUTEBIAN〉
まい　あーと・凧「バラモン」
by 五十嵐正市

◀「エコー・アミー」（指揮・境　敬彦先生）

立川夫人はお歌が大好き。ママさんコーラスが盛んなこと他市に決してヒケをとらない、つられてかボーイズもオールドも、はたまたジェントルメンも。人生は歌だ、と云った人がいる。歌がなかったら、どんなに淋しかろう。今年はイッチョウ、歌ってみますか。街に歌声を！　歌え、謳え！

歌え、謳え！

▲「九中ＰＴＡコーラス」は素直な声で聴衆を魅了するママさんグループなのだ。（指揮・森　一夫先生）

◀「コール・わかば」は去年結成された。団員の中には九中ＰＴＡの方もいる。（指揮・森　一夫先生）

▼ダイナミックな歌声は立川で最も伝統ある「ボーチェ・たちかわ」（指揮・藤堂元三郎先生）

◀「諏訪の森コーラス」の中村一郎先生の指揮は力強い。

▲「寿コーラス」の歌声は若い。（指揮・中村一郎先生）

▼「立川市少年少女合唱団」（指揮・佐藤峰子先生）

▲真剣な一人一人の声がハーモニーとなり空を翔ける。

「諏訪の森コーラス」の熱唱。▶

先月号まで『立川の花』（山内美郷さん）の連載が一応の終止符をうちました。

山内さんの人生を愛で、生活を愉しむ、女性ならではの筆致に多く読者の共感をよんだようです。さて、「立川の花」、何と何があったか憶えていらっしゃいますか？今月はマトメの意味で、市の花「コブシ」をはじめとして、〝緑化の向上に役立ち市民に親しめる花〟六種を紹介することにしました。イラストレーションは摂部裕理さんです。

立川の木「ケヤキ」、立川の花「コブシ」は昭和49年6月に、また六種の花々は55年10月に追加されたものです。心ひとつで、まだまだ自然はあなたに語るなにものかをもっています。花のある日々を！

立川の花

秋も末、冬が近づいてきている。色どりも絶えた庭に美しく咲くのがサザンカです。

サザンカはツバキの人気に圧倒されていましたが、耐寒性が強いこと、庭木として優れた点を数多くもっていることなどから、近年、この栽培が増加してきました。

サザンカはまた、常緑高木です。その高さはおよそ5メートル、高いものでは6メートルにも達します。

他の花々が消え去ってゆく頃、11月、12月にかけて香り高い花をつけます。

さざんか

こぶしはモクレン科の一種で、高さは8m内外にもおよぶ落葉高木です。花は葉に先立って2月から3月ごろに咲き、香気があり6枚の花弁があります。花弁は白色、長さは約6センチくらいになります。

こぶし

スミレの種類は900種にものぼるそうです。日本のものだけでも80種ばかりある多年草です。日本中、どこの土地へ行ってもみられ、万葉の昔から春の息吹きを感じさせる花として親しまれてきました。

西洋でも古くから、その可憐な花は愛でられてきました。バラとかユリとともに愛好され、多く栽培されてきました。いかにも、春のやすらぎを覚える花といえましょう。

すみれ

すいせんは球根のある多年草です。

白色と淡黄色と赤色の花をつけます。

花の姿にまだとぼしい早春に、気品にみちた清楚な花を開いてくれます。

そこで、古来、生花の世界では〝至宝花〟と名づけられてきました。

天にある〝天仙〟、地にある〝地仙〟、水にある〝水仙〟といわれる中国の言葉から、水仙がゆらいしているといわれます。

すいせん

つつじはサツキをのぞきますと、落葉性の低木です。

多く枝を分枝して、たくさんの花をつけます。花色は赤、白、黄、紫など色彩に変化あるものがみられます。

そのためでしょうか。園芸品種としては、数百種類にのぼっています。

つつじ

サルビアはシソ科の一属でブラジル原産の一年草です。一般に知られている朱紅色の他にも紫・ピンク・白色の花の品種もあります。高さは50～80センチとあまり高くないので花壇植の花として愛されています。

セージと言う香味料の名を、一度は耳にした事があると思いますが、これは地中海沿岸地方原産の薬用サルビアの事です。花色は紫です。全草、葉を乾燥させたものをうがい薬にします。また香味料として用います。これを香味料として用いた食品で有名なのが、ソーセージです。洋食ではなくてはならない香味料のひとつなのです。

サルビアというとやはり朱紅色の花が頭にうかびます。緋衣草の和名を頂いているように、朱紅色の花に人気があります。緋衣はその昔、高貴な人が身に纏いましたが、暑い晩夏に凛と咲くサルビアにも高潔さを感じます。

サルビア

コスモスはメキシコの原産で、一年草です。高さは一メートル内外というところでしょうか。

コスモス

秋に、いろとりどりに咲き、この花をみるといかにも〝日本の秋〟をおもわせますが、その名がカタカナであるように、ギリシャ語で〝飾り〟からきているそうです。

日本に伝わったのは、明治初期、イタリアの美術家が持ち込んだもの。以来、各地の秋を飾っています。

表紙は語る

五十嵐さんにとって、〝タコの季節〟なんてものはない。一年中、いつでもタコにかかわりをもち、交流が続いている。

「立川凧の会」（井上栄一さん会長）は15人くらいの小グループだが、いわゆる〝タコ・キチ〟集団であり、この道の達人が集まってきている。

「表紙のタコは、五島列島のものです。日本にはその地その地で独得の凧があって楽しいんです。旅行した先で作り方を教わったり」、もちろん、ご自分でお作りになる。タコを求めて何千里？

「いえ、案外と身近かにタコ・キチがいるもんです」

ジャの道はヘビ、と呵呵大笑。さすがに〝凧師〟。「江戸凧保存会」にも。ただ「あがればいい」ってもんじゃない。手の動き、眼の動き、わが子を愛でるよう。この頃からタコ・キチの病コウコウ。

真如苑だより

今年初の参観です。

■1月18日(土)午後2時から4時。

■御本尊、真如宝物館のご案内をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

⦿おおみそか、12月31日午後11時より元日の午前1時30分まで精舎境内のおまいりが出来ます。真如苑へ初もうで。いかがでしょうか。

タウン誌の時代か

タウン誌が全国規模で見直されはじめている。

この秋、NTTが「全国タウン誌フェスティバル」を開催した。政治、宗教色にかたよりのないタウン誌という条件で408誌が「全国タウン誌展示会」（東京・原宿）に勢揃いした。各誌のページからは、その土地の温もりが感じられる。立川市からは「ニュース0425」と「月刊えくてびあん」の二誌。

関係者の話だと昭和53年前後に一度〝黄金時代〟をむかえたタウン誌群が再びもり上りをみせている。時を同じくしてNHK報道局でもタウン誌の資料収集にのりだした。はたして、時代の声を反映できるか。

「この地酒飲みテエ」

立川人展好評

12月12日に開催された『ベスト立川人・展'85』は好評のうちにスタートした。

立川人・27名。ゲスト・8名。

こうして一堂に会してみると、まさに〝立川の鼓動〟をきくようだ。観覧者のほとんどが「立川にも、いろいろな人がいるものですね」「よくこんなに多くの人材を見つけてきましたね」の声。

詳しくは来月号でご覧頂こう。

？立川クイズ？

犬は好きですか？さて立川市内にはどのくらいいると思いますか。

①三百頭ぐらい②三千頭ぐらい③五千頭ぐらい④一万頭ぐらい

〔12月号の答え〕29番目です。一日の平均乗降客数は19万人にもなります。ちなみに1番は新宿駅で64万人の乗降客がいます。答えは②

！工房から！

●立川の人々を、立川の人々が視る――。『ベスト立川人・展'85』では皆さまのご協力を頂きまして本当にありがとうございました。ある市のCity Faceを一堂に集めたのは、おそらく初めてのことではないかとの評をくださった方がいる。そうかも。●朝日新聞に「今年のベスト立川人」として紹介されたのを筆頭に、読売新聞、〝フジ・サンケイ・リビング〟などマスコミのご協力を頂いたこともあって、立川人展は多くの立川人、それにご遠方の方々が案外と多くこられ、うれしかったです。●〝ふるさと〟という言葉には、もう手アカがついてしまったがタウン誌が全国から集合してみると〝ふるさと〟全員集合の観があり、立川もまた、その一つであったことに気づく。ある土地を本当に愛することが出来れば、そこが〝ふるさと〟そのもの――当り前の事実を思いおこさせる。立川を〝ふるさと〟とする「えくてびあん」と読者とで、何か新しいものが作れそう、勇気百倍の新春です。●えくてびあん 今年もくるぞ 大晦日。

（編集）青葉典子　岡悦子　加賀桂子　神山清子
福川環　田中恵子　原田礼子　矢野義勲
（写真）天野武男　吉田義治　スタジオ269

月刊えくてびあん　第18号
昭和六十一年一月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11
ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

乗（の）りますか？ 反（そ）りますか？

案外、むずかしんでです。取材記者も乗ってみました、転びました。スネに傷ある身であります。

松下 克（上砂町一丁目）さん。こちらはもうキチガイであります。本職はギター奏者なのですが、手は弦をはじき、足はペダルを踏んでいる。ついには「全国一輪車競技連盟」を作り、この秋には全国大会まで開いた。

▲少年の柔軟さには驚かされる。三日もあればハイこの通り！

◀松下 克さん主宰の「どんぐりの会」のメンバー。老いも若きもが一同に会して和気あいあいの雰囲気。

▶一輪車、皆で乗れば怖くない。

◀この堂々の乗りっぷりは流石師匠。第七回日本一輪車大会では個人演技の部で見事4位。

▶左から早坂みき子さん、阿部喜美枝さん雅治さん達也くん一家。みんなこの日が初めて。

全国一輪車競技連盟